

「求道の画家 岸田劉生と椿貞雄」展

久留米市美術館では、大正期の美術界にユニークな位置を占めた美術団体「草土社」^{そうどしや}で深い交流のあった二人の画家、岸田劉生^{きしだりゆうせい}（1891～1929）と椿貞雄^{つばきさだお}（1896～1957）の展覧会を開催します。

日本近代洋画史に残る傑作《麗子像》など写実的かつ神秘的な作品を描いたことで知られる劉生と、18歳の時に画家を志して米沢から上京し、劉生と運命的な出会いを果たした椿は、師弟であり、共に写実の美を追求した同志であり、生涯の友でもありました。

本展では、二人の代表作を含む油彩画、日本画、書簡などにより、二人の強い絆と、それぞれの個性の足跡をたどります。東京出身の劉生と東北ゆかりの椿の二人展は、九州では初の開催となりますので、ぜひ広報にご協力いただきますようお願いいたします。

展覧会名	求道の画家 岸田劉生と椿貞雄
会期	2018年4月7日（土）～6月17日（日）
出品点数	油彩画や日本画約150点
会場	久留米市美術館（本館2階）
主催	久留米市美術館、毎日新聞社、RKB毎日放送
後援	久留米市教育委員会
企画協力	公益財団法人 日動美術財団、米沢市上杉博物館
スペシャルパートナー	株式会社ブリヂストン
オフィシャルパートナー	学校法人久留米大学、株式会社筑邦銀行、株式会社森光商店
入館料	一般1,000円（800円）シニア700円（500円）大学生500円（300円） 高校生以下無料 ※（ ）内は15名以上の団体料金、シニアは65歳以上、前売りあり。 上記料金にて石橋正二郎記念館もご覧いただけます。 ※4月26日（木）の石橋文化センター開園記念日と5月5日（土）のこどもの日は、入館無料
休館日	月曜日（ただし4月30日は開館）
開館時間	10:00-17:00（入館は16:30まで）
交通案内	JR博多駅よりJR久留米駅まで新幹線で20分（在来線あり） 福岡（天神）駅より西鉄久留米駅まで特急で30分、急行で40分
本展に関するお問い合わせ	久留米市美術館 展覧会担当：稲富景子、森山秀子 広報担当：森 智志 〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015（石橋文化センター内） TEL0942-39-1131/ FAX0942-39-3134

展覧会のみどころ

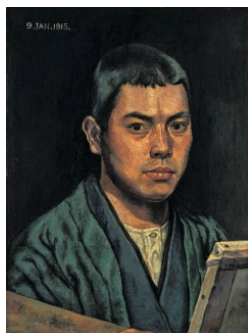
その1 劉生と椿が目指した写実絵画

若き劉生は、文芸誌『白樺』を通してゴッホやセザンヌなど後期印象派から影響を受け、やがてデューラーなど北方ルネサンス絵画に強く惹かれて写実に転じます。そしてこの時期の劉生の作品を、京橋の田中屋で開かれた個展で偶然に見た椿は、強い感銘を受け、入門を決意します。劉生 23 歳、椿 18 歳の時でした。

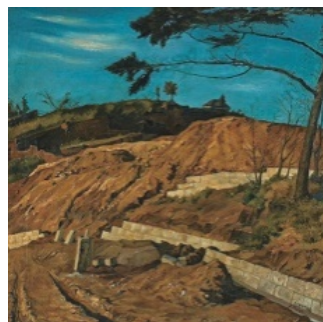
翌年、劉生をリーダーとする絵画グループ「草土社」が結成され、劉生と椿はともに、白樺派のヒューマニズムを背景とした、草や土までも細密に描写する求道者的な写実表現に邁進していきます。この時期の二人の作品には、身近な風景や人物といったモチーフにも共通するものが多く見られる一方、色遣いや筆さばきなどには、二人の画家としての感性の違いが表れています。



①岸田劉生《椿君に贈る自画像》
1914年 東京都現代美術館



②椿貞雄《自画像》
1915年 千葉県立美術館



③椿貞雄《赤土の山》
1915年 米沢市上杉博物館



④岸田劉生
《古屋君の肖像（草持てる男の肖像）》
1916年 東京国立近代美術館



⑤岸田劉生
《童女図（麗子立像）》
1923年 神奈川県立近代美術館



⑥椿貞雄《菊子座像》
1922年 平塚市美術館

その2 東洋の美へのまなざし

劉生は、転地療養のため鶴沼（現：神奈川県藤沢市）に移り住んだ頃から、中国の宋元画に興味を引かれはじめ、さらに京都へ転居後は、浮世絵や南画にも関心を広げます。椿もまた、劉生の影響を受けて日本画に取り組みますが、劉生の古画に倣った観念的な作風に対し、椿が描く日本画には家族がたびたび登場するなど、より親しみやすい雰囲気が漂います。二人の日本画は、紙と墨という材質でなければ出ない深い味わい、そうした東洋の美の魅力に迫ろうとした、それぞれの研究の成果と言えるでしょう。



⑦岸田劉生《画人無為》1926年
笠間日動美術館



⑧椿貞雄《画家の家》1935年
米沢市上杉博物館

その3 劉生没後の椿の展開

1929（昭和4）年の暮れに劉生が38歳で急逝し、椿は大きな喪失感を抱えますが、約7ヶ月の渡欧体験を機に、「いよいよ古衣をかなぐりすてる時が来た気がする」と、自らの画家としての再出発を決意します。その後、椿の絵画は、愛する妻や娘を描いた作品のほか、戦後は孫と長崎風景が主要なテーマとなっていきます。鮮やかな色彩と力強いタッチで描かれた長崎風景からは、雪国出身の椿が、九州の陽光と明るい色彩に魅了された実感が伝わってきます。

PRESS RELEASE
2018.2.23



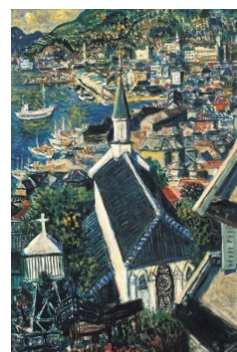
⑨ 椿貞雄《髪すき図》1931年
東京国立近代美術館



⑩ 椿貞雄《壺（白磁大壺に椿）》
1947年 米沢市上杉博物館



⑪ 椿貞雄《孫と祖母》1955年
米沢市上杉博物館



⑫ 椿貞雄《大浦天主堂》
1957年 米沢市上杉博物館

関連イベント

【ギャラリートーク】

- ・日 時 : 毎週土曜日 (4/14、6/2 をのぞく)、日曜日の 14 時～14 時 20 分
- ・集合場所 : 本館 2 階エントランス
- ・参加費 : 無料 (要本展チケット)

【美術講座】

「愛情の画家 椿貞雄」

- ・日 時 : 4 月 14 日 (土) 14 時～15 時 30 分
- ・講 師 : 米沢市上杉博物館 学芸主査 花田美穂氏

「劉生から見た椿貞雄」

- ・日 時 : 6 月 2 日 (土) 14 時～15 時 30 分
- ・講 師 : 久留米市美術館 副館長 森山秀子

いずれも会場は本館 1 階多目的ルーム、先着 70 名 (聴講無料)

作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「広報画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
6. 掲載見本を必ず 1 部お送りください。